



きょうもおてんき



教育相談の報告



11月6日に2回目の教育相談が行われました。廿日市市教育委員会特別支援教育アドバイザーの大本先生が来られて、授業参観の後、助言・指導をしていただきました。全体や学級経営に関わることもお話されたので、報告します。

○学校全体

- ・ 学校が落ち着いている。
- ・ 校内や教室の掃除が行き届いていて、環境整備もよい。
- ・ 校内の掲示物が丁寧に貼られている。



先生方が日々、丁寧に指導されている成果です! 🌸



各学級で気になる児童については、個別に担任の先生にお知らせしています。全体に関わる助言についてお知らせします。

○授業改善と学級経営のワンポイント

- 1 視覚化・焦点化・共有化を図る
- 2 板書計画を立てる
- 3 授業の中で、全員におさえるところを確実に学習させる
- 4 教室環境を整える



○姿勢について

- ・ 姿勢が崩れやすい児童がいる。筋力が付いていない場合もある。(叱ってもできないことがある!)
- ・ 文字を書くとき机と目の距離が近い児童がいる。視力に問題があるのか、物の形をとらえにくいのか見極めることが必要。

○ワーキングメモリーについて

- ・ ワーキングメモリーが低いと入ってくる情報が少なくなる。
- ・ 聞いたことをすぐに忘れてしまうことが、気持ちの切り替え・気持ちの抑制・情報の更新を難しくしていることがある。→コミュニケーションに支障が出る。
- ・ ワーキングメモリーは鍛えることができる。低学年は「しりとり・抜き言葉・聴写」などを行うとよい。上の学年では、アトランダムな数字の復唱や逆唱などでトレーニングできる。
- ・ ワーキングメモリーの弱い児童への配慮
→黒板に提示した図形と同じものをプリントしておき、ノートに貼らせる など

ワーキングメモリーとは?

インプットした情報を一時的に頭の中の一部分に保存しながら、過去に保存した記憶の中から必要な情報を検索・想起したり、必要のない情報を削除したりして、情報を整理する力。

(花本先生の講話より)

例えば、板書をノートに写すときも、ワーキングメモリーを使っています。ワーキングメモリーが低いと、ノートをとるのに時間がかかることもあります。脳のメモ帳ともいわれます。

○支援が必要な児童がクラスに多い場合の工夫

国語の授業中、担任が「分からない言葉はない?」と尋ねる場面がありました。音読はできるけれど、子どもたちは言葉の意味を理解できていないことがあります。分からないことをそのままにせず、確認しながら授業を行うことで読解が深まります。

教室が整然としているのは、一見良いように見えるが、深い学びにつながっていないこともあります。一人一人が学習に参加しているか確認することが大事です。

先生がにこやかに穏やかに話をするのは大切なこと。言葉遣いも大事です。



大本 市郎先生

聴覚過敏の児童はいませんか?(大きな音がすると耳をふさぐ子どもはいませんか)

視覚化を意識するといいです。「NHK for school」など、全部でなくても一部分見せてもよいので、児童にとって効果的な方法を工夫してみてください。

大本先生の教育相談は、3回目が3月にあります。年度末ですが、相談があれば奮ってご参加ください。急を要することがあれば、花本先生に臨時で来ていただくこともできます。ご相談ください。

